

## 答 辞

通学路の花々も、長い冬の眠りから覚め、柔らかな息吹が感じられます。この良き日に、私たち160名は、思い出深い学び舎を卒業します。本日は、このような温かな式を開いていただき、心から嬉しく、ありがたく思っています。

3年前の春、私たちは真新しい制服に身を包み、これから始まる中学校生活への期待と不安を胸に、南部中学校の門をくぐりました。全てが初めてで分からないことばかりだった私たちを、たくさんの先生方や先輩が支えてくださいました。フラワーパークと動物園での遠足では、新しい友達との仲が深まり、とても嬉しく感じました。躍友祭や緑友祭では、コロナ禍による制限もありましたが、クラスで協力し、「初めて」を分かち合いながら成長することができました。

2年生になり、私たち第43期生徒会は「桜梅桃李」というスローガンを掲げ、南部中をより良くしていこうと、校則の見直しやあいさつ運動に取り組んできました。

あじさい学習もよい思い出です。未来授業やジョブチャレンジ。職場体験学集では、いろいろなお手伝いをする中で、「ありがとう」という言葉を何度もいただきました。これらの活動を通して、私たちは、人から信じられることの喜びや、互いの存在の大切さを感じるすることができました。

3年生のスタート。京都・奈良への修学旅行は本当に楽しかったです。バスの中、東大寺や薬師寺などの見学先、雨の中の班別活動、ホテルの中。どこを思い出しても笑い顔が浮かんできます。

躍友祭。縦割り綱引きや長縄。そして「青春大爆走」。どうしたら上手くいくのか話し合い、みんなで練習してきました。だからこそ、最後の躍友祭を全力で楽しみ、燃えることができ

ました。

部活動。体力づくりや基礎練習を積み重ねて、さらに技術を向上させようと努力してきました。溶けそうな熱い夏、凍える寒さの冬。たくさん走りこんだ校舎周り。必死にボールを追ったグラウンドやコート。楽譜と向き合った音楽室。真剣に筆を走らせた美術室。大会や練習試合で勝利した喜び。みんなで応援し、励まし合った日々。最後の磐周大会やコンクールに向けて全力で取り組んだ仲間の姿。それぞれの部活動にドラマはあったのです。悔しくてくじけそうになったときに流す涙の価値に、互いの励ましやプレーが決まったときの笑顔の価値に、私たちは気付きました。

最後の緑友祭。楽譜にいろいろと書き込んで、自分たちの曲となった「響き合う命」「ヒカリ」「春に」「いまここ」「信じる」。自分の声が友達の声と重なり合い、仲間と共に合唱を創り上げる喜びを私たちは感じました。インフルエンザによる制限があったからこそ、工夫を凝らし、練習時間を大事にしました。大切な大切な私たちだけの曲。クラスの絆がグッと深まり、思い出に残っています。

私たちは今までたくさんの人に支えられてきました。

地域の皆様方。登下校の際に交わしてくださるあいさつが、私たちはとても嬉しかったです。ときにはお叱りのお電話や、お褒めの言葉をいただき、いつも地域の皆様に守られていることに大きな安心感を覚えました。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。至らない私たちでしたが、皆さんの先輩として一緒に活動できた時間を私たちは忘れません。「自立 創造 奉仕」の南部中学校を私たちは誇りに思っています。生徒会スローガン「輝笑転結」のもと、良き伝統を引き継ぎ、新しい活動を創ってください。皆さんに託せることをとても心強く思っています。



先生方、3年間の中学校生活の思い出には、いつも先生方が一緒でした。今だからこそ、先生方の言葉や御指導の一つ一つが、深い愛情の表れだったことに気付きます。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。本日、義務教育最後の日をこうして迎えられるのは、お父さん、お母さんのおかげです。迷惑をかけ、反抗したこともありましたが、私たちを心から支え、理解してくれるのは、お父さん、お母さんです。これからも温かな目で私たちを見てください。いつもは恥ずかしくて言えませんが、この場を借りて感謝の言葉を伝えます。お父さん、15年間ありがとう。お母さん、私を産んでくれてありがとう。

最後に、3年生のみんな。受験をはじめ、3年間の生活には、辛いことも大きな試練もありました。でも、励まし合い協力し合うことができた仲間を、私は誇りに思います。みんなで受けた授業。本気で取り組んだ数々の行事。休み時間の何気ない会話。仲間がいたからこそ、思い出に残る時間にすることができたのです。これからはそれぞれの道を歩いていきますが、今日までの3年間で私たちの心に寄り添い、力を与えてくれるでしょう。

南部中学校での私たちの大切な時間が、終わりに近づいています。教室とも、校庭とも、先生方とも、仲間とも、もうお別れです。これからの未来、ときには高い壁にぶつかるかもしれませんが、壁は乗り越えることができる人にしかやってきません。南部中で学んだ自分を信じて、道を切り拓く強さや、互いを思いやる気持ちを大切に、新しい道への一歩を踏み出していきます。

さようなら、皆さん。

さようなら、南部中学校。

本当にありがとうございました。

令和6年3月18日 卒業生代表 三橋 七海